

にいがた

北から南から



薪ストーブを楽しむ

霜野好克

少年時代の山村の暮らしを再びと、退職後糸魚川市街から車で三〇分ほどの山地に家を建てました。標高四五〇メートル、周りは雑木林や岩魚の住む清流などに恵まれています。終日小鳥のさえずりを聞きながら晴耕雨読の生活をしています。

家の薪ストーブは、重量二〇〇キログラムもあり、吹き抜け二〇畳の部屋にどっしりと座っています。最大出力十一キロワット、長さ五五センチの薪を入れることができます。一階の玄関から二階まで三四坪の全館を暖房しているので薪の消費量も相当のものになります。

薪ストーブの楽しみは、まず薪集めにあります。ストーブを入れて三シーズン目を迎えています。これまで薪集めに関わった場所は一〇ヶ所くらいになります。近いところで往復一〇分、遠くで三時間のところ。私一人であるいは友人との協同作業で、ときには妻とおにぎり持参で自然を楽しみながら薪集めをします。いい汗をかいて体力の維持にもつながっています。

「田圃が日陰になり雑木を切ったので取りに来て」なんて見ず知らずのおじいさんから声がかかったりすることがあります。そんな時は、「有り難や、有り難や」と、軽トラにチェーンソーや一輪車を乗せて喜び勇んで出かけます。今では、チェーンソーの目立ても上手にできるようになりました。

抱えきれないほどの太いナラ、クリ、ケヤキなどが大量にあると宝物にでも出あったかのような気分になります。薪の材料としては最高級の雑木だからです。先日も近所の方から台風で倒れたトチノキの大木とキハダをい



いただきました。薪集めは人とのつながりも広がってくれます。

次は薪割りの楽しみです。生まれ育った黒部での高校時代、父と薪割りをしたことを思い出します。それから四〇数年経っています。薪割るコツを体が覚えていました。暇に任せてゆっくりやることにしていますが、やり出すと止まらなくなるのが性分で、気を付けねばと思っています。

ナラやサクラは粘っこくてなかなか割れにくく、クリやブナは割れやすいこと、直径五〇〜六〇センチもある大きな木は、外側からそくように割ればよいこと、また、斧ばかりに頼らず金矢を上手に使うと簡単に割れること、など木の素性も分かかってきて薪割りがいっそう楽しいものとなってきました。

薪積みも楽しみの一つです。はじめの頃、積み上げて二〜三日目に、がらがらと音を立てて崩れ落ちてしまったこともありましたが、曲がった薪、でこぼこの薪、燃やすのがもったいないくらいにすらっとした薪、大きなこ

ぶのある薪……。それぞれの薪をうまく組み合わせ、整然と積み上げていくことも、今では心地よい楽しみの一つとなっています。

さてなんと言っても薪の楽しみは、ストーブで焚くことにあります。私はストーブの椅子に腰を下ろして、炎の七変化を楽しみます。何時間見ても飽きません。炎の色や形、大きさ、動き、におい……。薪の燃え方は一時として同じことはありません。オーロラのようにゆらめく炎を見つめていると、薪に関わった苦勞を忘れさせてしまいます。

昨年の一〇月、地元の森林組合からトチノキ、コブシ、ケヤキ、シラカバ、コナラ、ミズナラ、ブナの幼樹を購入し、植樹しました。少年時代、杉の植林をした以来のことです。芽吹きから新緑へ、夏には虫が集まり、紅葉を経て眠りにつく雑木林の織りなす四季を想像しながら作業をしました。数十年後にすばらしい雑木林が出現し、フクロウなどが住みついたら最高ですね。

(しもの よしかつ・糸魚川市)